

川畑満里子さん『姉妹のコミュニケーション』（5月3日配信）

こんにちは！

私たち夫婦はどちらもろうで、1歳と4歳の娘は聴者です。娘たちのような子どもをコーダ（CODA）といい、手話ではこのように表します。ろう者の両親を持つ子どものことです。

親子のコミュニケーションは手話です。上の娘は0歳から手話で親子の会話をしてきているので、今はすごくおしゃべりになりました。保育園ではお友だちや先生と声で話をします。帰宅してから…ではないですね、親の私たちと顔を合わせると手話で話すようになります。

1歳の下の子はまだ保育園に通っていません。コミュニケーション…そうですね、私は手話で話しかけます。娘から手話単語が出てくることがあります。例えば何でしょうね…「お風呂」はこのようにやっていますね。「わんわん」「鳥」、自分の名前のサインネームや、お姉ちゃんのサインネームもこのようにやっています、とってもかわいいです。

聴者の姉妹同士ではどうコミュニケーションしているのかなあと、以前気になって様子を見ていたことがあったんです。お姉ちゃんは、声だったり手話だったり、その時の気分によっていろいろでした。初めは声でしゃべっていたので、私が「何しゃべってるか分からないから手話使ってよ」と言うと、ちょっとふて腐れながらも手話を使うようになり、最近は手話で話すことが多くなりました。

家にハンモックがあるのですが、ブランコのようにも使えます。ある時、お姉ちゃんが妹に手話で「一緒に乗ろうよ」と誘うと、下の娘も大きく頷いてハンモックを指さすんです。私が先にお姉ちゃんをハンモックに乗せると、下の娘が私の体を叩きハンモックをひたすら指さすので、下の娘も乗せてあげました。というように、私やお姉ちゃんが手話で話した内容はきちんと理解できているようです。

上の娘はおしゃべりな性格で、1歳半くらいの頃にはもうとにかくしゃべりたいと手を動かしていました。下の娘は落ち着いた性格かなと思います。いずれおしゃべりできるようになるのが楽しみです。